

特集

「奈良女」だからこそ

—新学長が語る、この場所で学ぶことの意義—

CONTENTS

- 【特集】「奈良女」だからこそ
—新学長が語る、この場所で学ぶことの意義— 2
- 【特集】廣岡栄子国際奨学金の留学体験談
～奨学金で叶えるグローバルな学びの旅～ 4
- Introduction to Master's Studies
大学院へようこそ
食物栄養学専攻 小倉裕範先生 8
- 【学生記者企画】
奈良国立大学機構エクステンションセンター訪問記 10





奈良女子大学文学部で長年にわたり教鞭をとられていた高田将志先生が、令和六年四月一日付で学長に就任されました。このインタビューでは学生記者の三好が様々な角度から学長のお話を伺いました。ぜひ最後までお読みください。

(以下、敬称略)

三好 本日のインタビュー、とても楽しみにしていました。よろしくお願ひします！

高田 こちらこそよろしくお願ひします。

Q では、早速質問です。普段学長と関わることが少ないのであまりイメージが湧かないのですが、どのようなお仕事をされるのでしょうか。

高田 たとえば、文学部や理学部などそれぞれの学部長が集まる会議において、議事を運営し最後にゴーサインを出すのは学長の仕事です。大学として行う様々な決裁は最終的には学長に上がってきます。予算や経営のこととなると、奈良国立大学機構の理事長先生にお話が回ることもありますね。

Q 次の質問です。奈良女の魅力を一言で表すと何でしょうか。

高田 三好さんはどうお考えですか？

三好 私は奈良女の「穏やかさ」がいいなと感じています。奈良という場所は他と比べてゆっくり時間が流れている感じがして……。そんな環境で学べるのが魅力ですね。
高田 ありがとうございます。少し似ているかもしれませんが、私の答えは、短い言葉で表すと奈良女の「品」です。「品」というのは具体的に説明するのは難しいですが、なん

となくわかりますよね。大学全体にも学生さんにも品格が漂っていると思います。

Q 次の質問です。男女の格差や区別が撤廃されていくこの時代に、「女子大学」が存在することの意義とは何なのでしょう。

高田 世界経済フォーラムが「ジェンダーギャップ指数」というものを毎年発表していますが、日本は去年の時点で146か国中125位でした。すなわち、他の先進諸国と比べて男女格差が大きい国だと思われています。これはあくまでひとつの指標なのですが、世の中の趨勢はそうなっているのですね。ここで、『なぜ東大は男だらけなのか』という本を紹介します。この本は、なかなか刺激的ですのでぜひ読んでみてください。つい数年前まで東京大学には同校に在学している女性は、お断りのサークルがありました。なぜこのようなことが起きていたのかと不思議に思いませんか。今こそ大学側は男女差別を撤廃するべきという公式な立場をとっていますが、東大でこのようなことがまかり通っていたというのが日本社会のひとつの歪みなのですよ。これから社会に出ると、格差を実感することが多くなると思います。もしかすると、現在ストレスなく大学のキャンパスで過ごしていることは、そう当

たり前のことではないのかもしれませんが。また先ほども言ったように、日本社会の男女格差はまだ大きいのです。例えば賞金の問題や、女性がライフイベントにおいて不利になつてしまつという現状があるといったことなどですね。そんな社会だからこそ、女性が高等教育で大いに力を発揮できる場所が必要なのだと思います。そういった意味で、勉学・研究をしていくうえで男性・女性といった区分を意識せずに過ごしていける環境を本学が提供していることは、価値のあることではないかと考えます。

三好 これまでの人生で男女格差をあまり感じることもなく生活してこられたのは、とても幸せなことだったのだなと思いました。「女子だけ」という環境だからこそめいっぱい力を発揮できるというのは、まさにその通りだと実感しています。

Q 次の質問です。近年、社会的に理系の学びが重要視されるようになっており、一部では「文系は就職できない」という話がまことしやかにささやかれています。これに対して、長年奈良女子大学文学部で教鞭をとられてきた学長はどうお考えでしょうか。

高田 現在、情報系やものづくりに関係する人手が足りないということで、そのような分野にお金をかけることで人材育成をしようとする活動が盛んです。しかしながら、今の社会において、文系出身で活躍されている方が多いのも事実です。例えば、経営に精通していたり英語などの語学を高いレベルで習得していたりすると企業から引く手あまたではないでしょうか。三好さんは、現在学ばれている文学や言語について、将来に繋がりにくいのではないかと不安に思われているかもしれませんが、

間にとつて本質的に重要なものと再認識させられました。また、オンライン会議などの新しいテクノロジーはそうせざるを得ない環境があれば一気に浸透するのだと感じました。その一方で、大学生の方には対面の重要性をもっと意識してほしいです。オンラインで得る情報と五感で受け取る情報は全く違いますよね。科学技術が発達したといっても、その場の雰囲気を感じ取る技術などは人間に全く追いついていないと思います。学生の皆さんには対面での交流を通じて、人と人との関係性をもっと大切にしてほしいなと考えています。

Q 最後の質問です。これから奈良女で学んでみたいと考えている全国の女性へ一言お願いします。

高田 言いづらいのですが、初めて奈良女

ませんが、「ことば」というのは生きる上で非常に重要なツールですよ。文学部でのたくさんのレポート課題を通して、書く訓練や表現する訓練を行うことは基礎的でありながら社会と結びついた大切な学びになります。さらに、ある学問に対して「それをやって何になるのか」という問いが挙がることもありますが、今一度「役に立つ」とは何か真剣に考えてみてほしいと思います。芸術などをはじめ、この世に存在している役に立っていないものなどないというのが私の考えです。

Q 次の質問です。長期にわたるコロナ禍の中で特に印象に残っていること、日常に戻った今だからこそ奈良女生に意識して過ごしてもらいたいことは何でしょうか。

高田 私は、ご飯を食べに行ったり、色々なものを見に行ったり、旅行に行ったりするのはとても好きなので、「不要不急」は実は人

に赴任した時、キャンパスが小さくて「高校みたいだな」と思いました(笑)。ですが、ずっとこの場所で研究していると色々な良いところを見つけられました。立地であったり、大学全体の品であったり、町全体の雰囲気であったり、奈良女の落ち着いた環境はどの大学にも備わっているものではありません。また、実際に奈良の寺社仏閣や史跡を散策してみても歴史の奥深さを肌で感じられることも魅力だなと感じています。
このよつな贅沢な環境で学んでみたい方はぜひ奈良女子大学へ学びに来てください。お待ちしております！



「奈良女」だからこそ —新学長が語る、この場所で学ぶことの意義—

高田 将志 (たかだ まさし)

1995年、奈良女子大学文学部助教授着任。2008年、文学部教授。奈良女子大学附属中等教育学校長(2013~15年)、共生科学研究センター長(2015~17年)、大学院人間文化総合科学研究科長(2017~21年)などを歴任。

2024年4月、12代目奈良女子大学長に就任。

第38次南極観測の夏隊員として1996年11月~1997年3月、南極大陸の学術調査に参画。研究分野は自然地理学。

学生記者の声



「学長先生とお話してみたい」という純粋な好奇心で学生記者に立候補しました。インタビューを通して発見が多くあり、大学生でいられる時間をもっと楽しむべきだと気づかされました。また、改めて奈良女の良さに触れたことで、より一層大学生活を大切にしようと思えました。この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。楽しく記事を読んでいただけると幸いです。

三好 芳佳 (みよし ほのか)
文学部言語文化学科 2回生
出身校：兵庫県立御影高等学校 (兵庫県)





廣岡栄子国際奨学金の留学体験談

奨学金で叶える
グローバルな学びの旅

奨学金設置の経緯

「奈」 良女子大学廣岡栄子国際奨学金は、卒業生である故廣岡栄子さんのご遺志により、ご令弟から「なでしこ基金」へ頂戴した寄附金により、海外の大学への留学及び短期留学プログラムへの参加を希望する者に留学援助を行うものと

して、令和5年度に創設されたものです。初年度の奨学生は、英国へ留学した大学院博士前期課程2回生(当時)の植村宥子さん、米国へ留学した生活環境学部3回生(当時)の渡邊莉子さんの計2名です。

卒業生である故廣岡栄子さんについて

廣 岡さんは昭和59年に奈良女子大学理学部数学科を卒業後、神戸大学の修士課程を修了、昭和61年に神戸製鋼所に入社、平成6年にコベルコ科研に出向してエンジニアとして活躍されました。平成27年には高知工科大学で社会人特別コースにおいて博士(工学)の学位を取得し、執行役員を務めるなど会社の重要な役割を担われましたが、残念ながら令和3年に永眠されました。女性の4年制大学進学率が10%

程度であった時代に理学部に進学され、また就職当時は男女雇用機会均等法が施行されたことにより、女性が総合職として企業で活躍される先駆けとして、開拓心を持って様々な経験を積み重ね、女性エンジニアとして研鑽を積まれることで活躍されました。母校である奈良女子大学への感謝のお気持ちが高く、母校に恩返しをしたいというご遺志を受け、ご令弟より「なでしこ基金」へご寄附いただきました。

奨学金支給決定通知書授与式

廣岡栄子国際奨学金

創設後初めての支給決定通知書授与式を開催しました

令 和5年7月27日、奨学生の植村さん、渡邊さんが、今岡春樹学長(当時)から支給決定通知書を授与されました。懇談では、各学生からの自己紹介と共に、留学に向けての抱負等から、異文化交流におけるコミュニケーションの重要性等についても話が弾みました。

今回の奨学生は2名ですが、本学で

今岡春樹前学長からのメッセージ

奈 良国立大学機構は、機構傘下の両大学をアグレッシブに国際化する目的で「国際戦略センター」を令和5年度に設置しました。時を同じくして「奈良女子大学廣岡栄子国際奨学金」は、卒業生である故廣岡栄子さんのご遺志により、ご令弟から「なでしこ基金」へ頂戴した寄附金により創設されました。

した。チエーンを付けた頃からバスが大きく振動し始め、無意識のうちにこんな会話をしていました。「今、何Hzで振動していると思っ?」「10 Hz以上じゃない?」というくだりがあります。研究テーマにどっぷりつかっている初々しい研究者の様子がかげえます。

廣岡さんの文章を拝読すると、隣接領域への興味にあふれて、フロンティア

スリットに算んでいるのです。男女雇用機会均等法で可能になった女性の総合職ですが、前例がないので開拓していくしか方法がないのです。彼女の「挑戦する心」が生きる現在のフロンティアはどこでしょうか。今日日本が挑戦しているのはダイバーシティ社会への変革です。ダイバーシティ感覚を手に入れるには海外留学が一番です。学生の海外留学を支援する「廣岡栄子国際奨学金」として活用させていただきます。

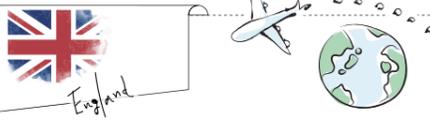


授与式の様子



前左から植村さん、今岡前学長、渡邊さん

植村さんの留学体験記



きるということは、テロや日常での暴力と関連があると再度実感しました。

(3) 交友関係での学び

① 大陸を超えた国々からの友人ができて様々な価値観に触れた

日頃一緒にいた友人は、香港、アメリカ、ドイツから来た留学生の3人でした。アメリカではこうであるとか、ドイツではこうである、香港ではこう、などとイギリス以外の国の現状も知ることができました。その中でも印象的だった事が日本の死刑制度への意見でした。香港の友人が「日本では『まだ』死刑制度があるけど～」と言われた時には驚きました。留学すると、何気ない日常から多様な国の意見や、基準に触れることがあり、それが興味深く、刺激的の多い毎日でした。



(4) 奨学金について

① 廣岡栄子国際奨学金の奨学生となりどのような気持ちだったか

はじめはヤッター!と思う気持ちと、どのように活かしていこうかと悩みました。というのも、廣岡栄子さんは女性活躍が難しい社会構造の中で大企業の役員まで務めていらっしまったとのことで、奈良女子大学へ寄せてくださった気持ちは特別なものだったと考えます。このような背景の中で、私が奨学生として選ばれたことはとても嬉しかったです。

② どのように役立ったか、今後留学を目指す後輩に向けてのコメント

この奨学金は毎月の寮費用に活用させていただきました。私の家庭は裕福な方ではないのですが、この奨学金のおかげで十分に留学生活を楽しみ、勉強に集中する事ができました。奨学金も充実しているので、是非、奈良女子大学での留学を目指してください。

ることもありました。ヨーロッパを旅行した時にも、電車もバスも時間通りに来ないことは当たり前だったので「成るように成るかあ」と気にしないようになっていきました。



(2) 大学での学び

① 自分の研究に関することが学べた

私はイギリスの移民政策とムスリムコミュニティに関することを研究していました。レスター市はイギリスの中でもムスリムの数が多く比較的統合に成功しています。その中でも学校教育のことを取り上げていたので、その教育の先にある大学の授業も受けられました。国際政治学や政治論も学び、研究の内実である現状を自分で経験できたことが大きな学びです。世界中で国際化が進む中で、日本にも将来突きつけられる類似した問題にどのように対応するべきか、何が問題になるのかを考えることができました。



この写真はレスター市の学校と連携して教育の場を提供している、レスターミュージアム・アンド・アートギャラリーです。研究に関係する場所を訪問できて、修士論文に組み込むことができました。

② 他国の学生の考えや経験を知る

日本でイギリスの移民政策を勉強していると、海外では多様性への対応が進んでいると感じていました。しかし、現実は違っていました。マイノリティへの理解が行き届いていない現状も窺えました。授業中に演習科目で意見交換をする機会がありましたが、その際にマイノリティに属するからという理由で、いじめで殴られ蹴られたことがあると話している人と出会いました。日本でもみんなと「違う」という理由でいじめられることはありますが、殴られ蹴られることは見た事がなかったので、海外で生

私は2023年9月から2024年1月まで、イギリスのレスター大学に留学しました。留学先では他国の学生と助け合いながら生活し、あっという間でしたが、大変充実した時間を過ごすことができました。今回の体験記では、<留学の体験で学んだこと>、<大学での学び>、<交友関係での学び>、<奨学金について>をお話します。

留学の体験で学んだこと

(1) 海外での一人暮らしの大変さ

① スーパーに知らないものばかり

まず生活をしなければならないため、初日にスーパーに行きました。例えば、現地で鶏がらスープの素なんてものは売っておらず、馴染みがない食材で食事を考えることが大変でした。日本から調味料などは持参しますが、そもそも日本で売っている食材がなく、アジアスーパーに行かなければならないなど食費に関して出費が高まりました。それでも私は美味しいものを食べて元気を保ちたい民族、日本人だと実感しました。

② 好きな時に洗濯できない

好きな時に洗濯ができない理由は2つです。まずコインランドリー制度だったため、頻繁に行くくと費用がかかるのでギリギリまで洗濯物を溜めていました。1回の洗濯機利用で600円、乾燥機利用で400円かかりました。もう1つの理由は、200人規模の寮の中で9台の洗濯機と9台の乾燥機を共有しているため、空いている時間を狙うことが大変でした。洗濯機は空いていても、乾燥機が空いておらず30分程度乾燥機が空くことを待っていました。留学終盤は、乾燥が終わる時間に来ない人が悪いと思って、勝手に洗濯物を出していました。



りました。もう1つの理由は、200人規模の寮の中で9台の洗濯機と9台の乾燥機を共有しているため、空いている時間を狙うことが大変でした。洗濯機は空いていても、乾燥機が空いておらず30分程度乾燥機が空くことを待っていました。留学終盤は、乾燥が終わる時間に来ない人が悪いと思って、勝手に洗濯物を出していました。

③ 交通機関が機能していないことも多い

日本の交通機関は素晴らしいと感じました。基本的に時間通りに来て、1分の遅れで謝罪のアナウンスが入ります。しかしここはイギリス。時刻表もバス到着時間は曖昧でした。2~3分間隔で来ると書かれているにもかかわらず、1時間近く待たされ

■ 交換留学制度について

奈良女子大学と海外の大学が締結している

大学間学生交流協定に基づき、奈良女子大学の学部もしくは大学院に正規生として在学している学生が、在学したまま、海外の協定締結大学に留学する制度です。留学先の大学へ授業料を納める必要はありませんが、奈良女子大学では休学せず、授業料を支払う必要があります。この制度により協定校へ受け入れられる人数には制限があり、奈良女子大学及び留学先大学での選考によって決定されます。航空運賃、生活費、保険料などは個人負担となります。

留学期間は1年以内の1学期または複数学期です。留学先の大学で取得した単位は、帰国後所属部局で認定されれば、本学の単位とすることができます。また、この留学期間は本学における在学期間として認められますので、留年せずに留学できる制度として計画されています。ただし、国や大学によって、学期の開始時期が違うこともあり、中には1年間留年する場合があります。協定校への交換留学は、文学部だけでなく、理学部、生活環境学部、工学部、大学院の学生も多く参加しています。

六年一貫教育プログラム^{*}を活用して留学する学生も多くいます。

^{*} 学部4年と博士前期課程2年を一貫して、学び・研究する機会を提供するプログラムで、学部生の間に大学院の科目を先行履修できたり、大学院入学試験における筆記試験が免除されたり、相当数の学生の入学料および検定料が免除されたりと、大学院進学を様々な形で支援しています。

■ 奈良女子大学の国際交流協定校一覧

^{*} すべての協定校との間で交換留学が行われているわけではありません。

中国 ・西安工程大学 ・南京大学 ・香港理工大学 ・蘇州大学 ・西安交通大学 ・東華大学繊維学部 ^{*1} ・新疆大学 ・武漢大学 ・大連理工大学 台湾 ・東海大学 ・東吳大学人文社会学院 ・台湾大学文学院 ^{*2} 韓国 ・梨花女子大学 ・ソウル大学生活科学部 ^{*4} ・忠南大学工学部 ^{*1} ・釜山大学	インドネシア ・ガジャマダ大学 ・アイルランガ大学理工学部 ^{*3} ・インドネシア大学 ベトナム ・ベトナム国家大学ハノイ ・ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学 ・ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学 ・ベトナム国家大学ハノイ 自然科学大学 ・ベトナム国家大学ハノイ 自然科学大学 アフガニスタン ・カブール大学 ・アフガニスタン教育大学 バングラデシュ ・バングラデシュ農科大学 ・チッタゴン大学 ・ダッカ大学 トルコ ・アクデニス大学	・ベトナム高等数学研究所 ^{*3} ・ベトナム科学技術アカ デミーゲノム研究所 ^{*3} ・トウイロイ大学 タイ ・チェンマイ大学 ・タマサート大学理工学部 ^{*3} フィリピン ・デラ・サル・リハ学園 ^{*2} ・フィリピン大学ティリマン校 アフガニスタン ・カブール大学 ・アフガニスタン教育大学 バングラデシュ ・バングラデシュ農科大学 ・チッタゴン大学 ・ダッカ大学 トルコ ・アクデニス大学	イギリス ・クィーンマーガレット・ ユニバーシティコレッジ ・レスター大学 ポーランド ・キャロル・マルチンコウス キー・ボズナン医科学大学 オーストリア ・グラーツ大学 ベルギー ・ルーヴェン・カトリック大学 ロシア ・ロシア人民友好大学 イタリア ・ボローニャ大学文学部 ^{*2} フランス ・パリ大学 ドイツ ・トリアー大学第二文学部 ^{*2} アメリカ ・ミルズ大学 ・リーハイ大学 オーストラリア ・キャンベラ大学 ニュージーランド ・リンカーン大学 ・オークランド大学理学部
---	--	---	--

^{*1}…奈良女子大学生活環境学部との部局間交流協定
^{*2}…奈良女子大学文学部、大学院人間文化総合科学研究科との部局間交流協定
^{*3}…奈良女子大学理学部、大学院人間文化総合科学研究科との部局間交流協定
^{*4}…奈良女子大学生活環境学部、大学院人間文化総合科学研究科との部局間交流協定
^{*5}…奈良女子大学文学部、生活環境学部、大学院人間文化総合科学研究科との部局間交流協定

■ 奨学金制度

交換（派遣）留学の申請者については、学内選考の結果に従い奈良女子大学廣岡栄子国際奨学金またはなでしこ基金派遣留学奨学金の採用候補者となります。

両奨学金は、奈良女子大学に在籍し、海外の大学への留学を希望する者に対する留学援助の事業として奨学金を支給するものであり、本学における海外の大学との留学生交流の一層の拡充を図り、相互の研究・教育水準の向上に資するとともに、各国との相互理解と友好親善に寄与することを目的としています。

なでしこ基金へのご支援もあり、交換留学派遣者への奨学金支援率は、他の奨学金も含め過去6年間連続して100%を達成しています。

奈良女子大学 廣岡栄子国際奨学金	派遣地域により月額6～10万円 (現地渡航型であること)
奈良女子大学 なでしこ基金 派遣留学奨学金	渡航前に一時金10万円 (オンラインなどの遠隔授業のみの交換留学になる場合は、全額支給されるとは限りません。)

支援人数は各10名程度

その他の奨学金制度については、
右のQRコードよりご確認ください。



学生記者の声

留学生活を振り返る中で、この挑戦が自分にとってどれほど有意義なものであったかを再確認することができました。記事を通じて、留学についての理解を少しでも深める助けができれば幸いです。また、この記事が留学に興味を持つきっかけとなること、あるいは新たな挑戦に向けて一歩踏み出す勇気を与えることを願います。異なる文化や環境の中で得られる学びと経験は貴重なものです。自分の可能性を信じ、未知の世界に飛び込んでみてください。



渡邊 莉子(わたなべ りこ)
生活環境学部生活文化学科4回生
出身校：京都市立堀川高等学校(京都府)

学生記者の声

移民と多文化共生について学びたいという気持ちが強くありました。さらに、移民について勉強するならば、留学をして現地の方の声を聞いて内実を修士論文に組み込むということが私の目標でした。今回、なでしこ基金に新たに廣岡栄子国際奨学金制度ができ、それを利用していただく立場として



植村 宥子(うえむら ゆうこ)
人間文化総合科学研究科生活文化学専攻2回生(当時)
出身校：大阪府立緑風冠高等学校(大阪府)



渡邊さんの留学体験記

私は2023年8月から2023年12月までの4ヶ月間、アメリカのノースカロライナ大学グリーンズボロ校に交換留学をしました。あつという間の4ヶ月間でしたが、今までの人生の中で最も濃い4ヶ月間だったと感じます。今回の体験記では、<留学前について>、<留学中について>、<留学での学び・気づき>についてお話ししようと思います。

留学前について

交換留学に応募したきっかけは、海外に対する漠然とした憧れでした。大学生になる前からいつか留学をしてみたいという思いはありましたが、実現に向けて動こうとはしてきませんでした。しかし大学生になって、大学生活においてやり遂げたことが何もないことに焦りを感じ、昔からの憧れを憧れのままで終わらせないためにも交換留学に挑戦することを決意しました。また大学で授業を受ける中で、ジェンダー学をさらに学んでみたいという思いが高まり、応募をした結果、海外で学ぶ機会をいただくことができました。

私は元々英語が得意な方ではなかったのですが、派遣をしていただくことが決まってからも、受け入れ条件のIELTSの得点を満たすことに苦戦しました。協定先大学への申請直前でなんとか得点を満たすことができましたが、ギリギリで満たした得点であったため、日本から出国する日まで英語力に対する不安を捨てきれないままでした。また出国直前まで準備や手続きでバタバタしていたこともあり、留学生活の幕開けは不安でいっぱいでした。

留学中について

留学して最初は何もかもが新鮮で、あつという間に時間が過ぎていきました。1週間が経つ頃には不安がある程度和らいでおり、1ヶ月が経つと生活にもすっかり馴染んでいました。



授業については、私は卒業研究で服飾とジェンダーの分野を取り扱いたいと考え

ていたため、ジェンダー学の授業を1つ、ファッションの授業を1つ履修しました。またそれに加えて興味のあるライティングの授業を1つ、中国語の授業を1つの計4つの授業を履修しました。それぞれ授業の規模や形式が少しずつ違っていたので、アメリカの大学の授業というものを様々な角度から経験できたと思います。興味のある分野の授業ばかりを履修していたので、基本的にはどの授業にも楽しく参加していました。授業では、今までとは違うアメリカならではの視点で物事を捉えることもあり、面白かったです。中国語の授業では、第一言語ではない英語で新たな言語を学ぶという興味深い経験ができました。授業によっては、ディスカッションやグループワークを行うものもありました。最初は自分の英語力が足りなかったこともあり、つらい思いや悔しい思いをすることもありました。その思いをばねに勉強に励みました。また大量の予習課題や提出物に追われ、心が折れそうになったときには、初心にかえって自分を奮い立たせていました。小テストで高得点が取れたり、先生やクラスメイトから嬉しいフィードバックをいただいたりなど日々些細なことがモチベーションとなって頑張りが続けることができました。留学中はこれまでの大学生活の中で、1番勉強した期間だったのではないかと思います。貴重な機会を無駄にするまい、とがむしゃらに取り組んだ結果、最終的に留学中に履修した4つの授業全てで最高評価を獲得することができました。こうして学業で結果を残せたことは自信につながったと感じます。

勉強以外では、友人と旅行に行ったり、学内のイベントに参加したり、休日に動物園やボウリングに行ったりなど、様々なことに取り組みました。寮のルームメイトとカードゲームをしたり、大学のジムで運動したり、学内を散策したりなど大学内での暮らしも満喫しました。

留学での学び・気づき

留学を通して非常に多くのことを学びましたが、その中でも特に3つの学びや気づきについて取り上げたいと思います。1つ目は、学ぶことの面白さです。授業では、現地の学生の学ぶ意欲の高さに刺激を受け、勉強の面白さに気づくことができま

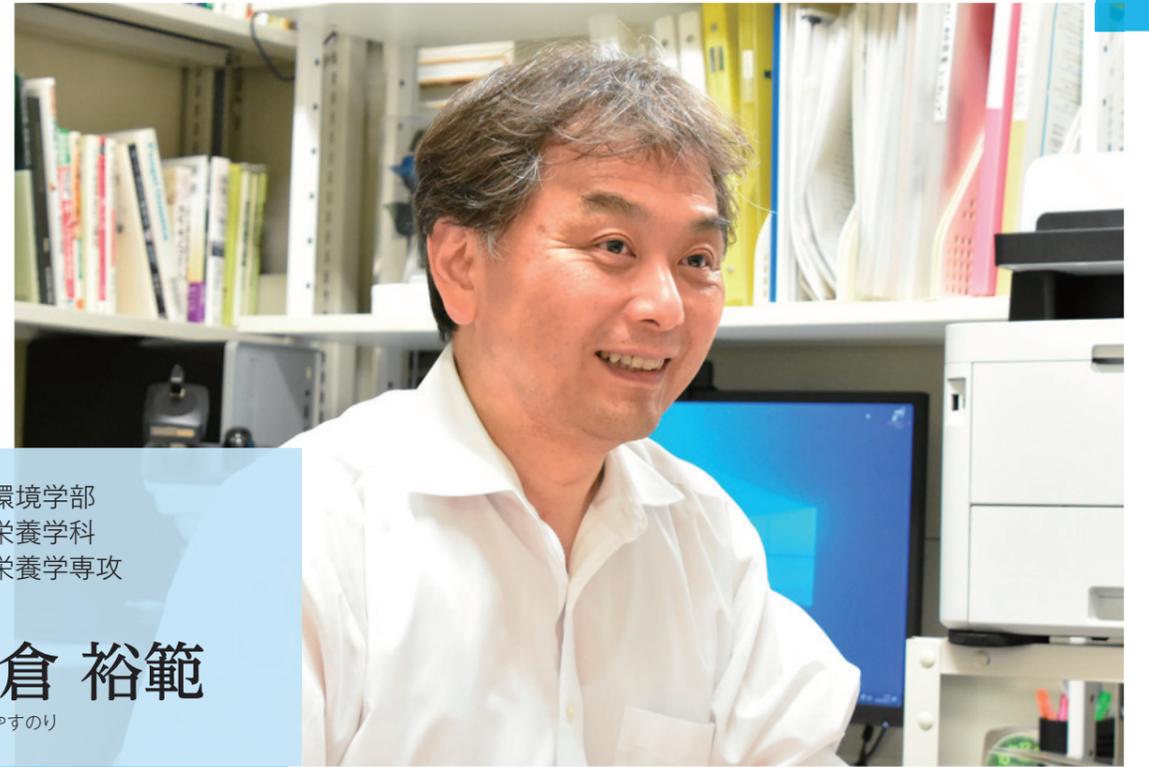
した。また最初は1/3しか聞き取れていなかった授業内容が半分以上聞き取れるようになったり、テストで高得点を獲得できたり、お店で正しく注文ができるようになったりなど、留学中は些細なことでも成長を感じる瞬間が多くありました。だからこそ、学ぶことに対して面白さややりがいを感じられたのではないかと思います。2つ目は、人の温かさです。留学中に英語力不足で苦労した場面は多くありましたが、現地の方は優しい人が多く、拙いながらも一生懸命英語を話していると真剣に聞いてくれたり、言いたいことを汲み取ってくれたり、わからないことを聞いた時には皆笑顔で答えてくれたりなど、沢山の人の温かさに触れました。目が合ったら微笑む、知らない人同士でも服を褒め合う、次の人のためにドアを開けておいてあげるなどのアメリカの文化も、人の温かさが感じられて素敵だと思いました。また、辛いときに日本にいる友達に支えてもらったこともあり、良い友達に恵まれたことを改めて実感しました。3つ目は、日本の素晴らしさです。夜に一人で出歩けること、店内が整頓されていて商品に不備がないこと、安くて美味しい食事が食べられることなど、これまで当たり前だと思っていたことが、実は恵まれていたことだったと気づかされる場面が何度もありました。もちろんアメリカも魅力的な国でしたが、自分の生まれ育った国を外から見るという貴重な経験を通して、改めて日本の良さに気づくことができました。



留学は、日本語が通じない環境で暮らしたり、寮で他の人と一緒に生活をしたりなど、新しい経験の連続でした。もちろん楽しいことだけではなく、むしろ辛いことや大変なことの方が多かったようにも思いますが、今振り返っても留学に挑戦したことに対する後悔は全くありません。貴重な経験ができ、こんなにも成長を感じた日々は今までになかったと強く感じています。もし、交換留学をするか悩んでいる方がいらっしゃらば、ぜひ一歩踏み出してみてください。きっとかけがえのない経験ができるはずです。最後になりましたが、このような機会をいただけたこと、奨学金のご支援をいただけたことを心より感謝申し上げます。

大学院へ
ようこそ!

食物栄養学専攻



生活環境学部
食物栄養学科
食物栄養学専攻
教授

小倉 裕範

おぐら やすのり

食物栄養学専攻ではどのようなことを学べますか。

食物栄養学専攻は、食品調理科学、公衆栄養学、食品衛生・微生物学、生体安全学など、様々な分野の研究室から構成されています。病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、現代の食に関わる多様な問題に対して様々な視点から研究や教育を行うことができます。

私が主宰している研究室は「生体安全学」という分野で、担当科目では主に病気のメカニズムを分子や細胞のレベルで明らかにした論文を互いに紹介し合う、抄読会(しやうどくかい)形式の授業を行なっています。論文は「Nature」や「Science」といった自然科学の分野で最もハイレベルな雑誌から選ぶようにしています。そうすることで、今現在の最先端の研究についてお互い情報交換し合うことができ、私自身、学生たちから新しいことを教わっています。

食物栄養学専攻の特色や強みは何ですか。研究を重んじている教員が集まっており、よりハイレベルな研究を志向していることが大きな特色だと思っています。独特な分野、切り口で研究を進めている教員に囲まれて、より高度な研究スキルに加え、深い教養、多角的な思考法を身につけることができると思います。

小倉先生の研究内容について詳しく教えてください。

私は分子生物学、細胞生物学の実験研究をしています。分子生物学、細胞生物学というのは生き物に関わる現象の仕組みを、分子のレベル、細胞のレベルで明らかにしようという機会が多いということです。大学院生にとつて、プロの研究者を身近に感じることができ、丁寧に指導してもらえるというのは、とても価値のある経験です。そんな奈良女子大学大学院のアドバンテージをぜひ有効活用してほしいと思います。

修了生の進路について教えてください。

やはり企業の研究職に就きたいという希望で大学院に進学する方が多いのですが、「研究できる管理栄養士」を目指すという方や、教職の専修免許を取得するために大学院に来る方もいます。ですので、修了生の進路は、企業や行政、医療、教職など多岐にわたります。(味の素、ニッスイ、武田薬品、中外製薬、パナソニック、ダイキン工業、厚生労働省(食品衛生監視員)、地方自治体、大学病院、栄養教諭、家庭科教諭など)

最後に、食物栄養学専攻を目指す学生に向けてメッセージをお願いします。

大学における学びというのは、本来、研究と密接に結びついているべきものだと私は考えています。学部3年生までは講義中心に勉強していると思いますが、できれば学部3年生以下の皆さんも、研究室に入り、研究とはどんな活動なのか、早い段階で知ってもらいたいと思います。4年生になって、卒業研究の1年間、研究室を中心とした生活を体験することになりますが、きつと1年間では物足りないと思うはずです。そう思ったならぜひ大学院へ進み、大学らしい学びをもっと深めてください。

世の中には未解決の問題が溢れています。まずは身近な未解決問題を見つけてみましょう。

たすタンパク質群です。さらに興味深いことに、私が扱っていたNLRタンパク質のひとつ、NOD2タンパク質は炎症性腸疾患であるクローン病の発症に関わることがわかりました。この発見は、従来原因不明だった炎症性疾患の背景には自然免疫系の異常が隠れていることを世界で初めて示したものでした。

研究の手法としては遺伝子組み換え技術を使っています。外から遺伝子を入れたり、ゲノムDNAの配列を改変したりすることによって、子実体形成に何が起きるかを調べ、キノコの細胞の中の重要な遺伝子の存在とその機能について明らかにするという手法です。今後もし子実体形成の仕組みを明らかにするという研究を続けていきたいと考えています。

キノコの研究の魅力は何ですか。

今、持続可能な社会の実現が謳われる中、炭素循環が問題となっています。大気中への二酸化炭素の排出を減らすために、化石燃料を燃やすのではなく、植物が固定した有機物を利用してという話があります。ただ、植物に含まれるセルロースやリグニンといった成分を、私たち人間は消化することも上手に利用することもできません。他に利用方法がなければ、セルロースやリグニンは燃料として燃やされるだけです。しかし、キノコはセルロースやリグニンを分解することができるのです。更には、それを代謝して人間が利用できる化合物に変えてくれるわけです。私たちはそれを食品にすることもできるだろうし、繊維や溶剤や各種材料などに利用できるかもしれない。そういう意味で、キノコは未知の可能性を秘めていて、私たちの生活をより良く、そして人類の未来を明るくしてくれる生き物であると考えています。

奈良女子大学大学院の魅力は何ですか。

奈良女子大学大学院の研究室は少人数の小さな研究室ではありますが、教員と大学院生との距離が近いのが魅力だと思います。距離が近いということはそれだけ互いに会話する



ウシグソヒトヨタケ (Coprinopsis cinerea)

学生記者の声



小倉先生のお話を伺い、身近に思える物事、それこそ食品が世間の大きな問題を解決するための糸口となる一例を目の当たりにしたように思います。私自身これから、小倉先生がおっしゃるところの「大学らしい学び」を経験することになりますが、身近な不思議を追究していく上で、自分なりの着眼点を大切にしたいという思いが芽生えました。この記事きっかけに、少しでも多くの方が、栄養学・食品学に、そして奈良女子大学食物栄養学専攻に興味をもってくださると幸いです。

中谷 有咲 (なかにに ありさ)
生活環境学部食物栄養学科3年生
出身校：学校法人清風南海学園高等学校 (大阪府)

う。若い方々にはそんな身近な不思議にどんどんチャレンジしてもらいたいと期待します。研究は必ずしも大きな大学でしかできないことではありません。私たちは小さい大学なりに大きな問題に果敢に挑む勇氣もあるし、相当の努力も重ねています。そこに一緒に加わってもらえたらと思います。100年後、1000年後の私たちの食生活を見据えた栄養学・食品学を、ぜひ一緒に作っていきしょう。



埼玉県支部 支部長 柴田 久美子

(昭和54(1979)年 文学部 国文学科/現：言語文化学科日本アジア言語文化学コース 卒)

会員数は現在約140名、その7割は「昭和」の卒業会員です。年に一度「支部だより」を発行し、総会参加を募ります。不定期ですが、本部や会員から寄せられた情報を「Web版支部だより」として発信しています。先日は、女高師卒～釜石女学校教諭～埼玉に移住～歌人として業績を残した大西民子の生誕百周年記念展のお知らせを配信しました。

総会出席は例年15名前後です。他支部のような講演会は企画したことがないのですが、専門的な分野の経験を持つ会員に総会前に依頼して「ミニ講演」を行ってきました。介護保険、環境保全活動、ブラジル移民の歴史、ハーブの活用、山歩きと写真と短歌、等々。「へえ～」と感心したり驚いたりのお話ばかりでした。加えて、それぞれの近況や頑張っていることを語り合うと、お互い「また来年ね」「元気でいきましょうね」という気持ちになります。それを励みに、3人の役員もがんばっています。

オリジナルの取り組みを二つ紹介します。一つは、10年前、環境保全や市民の農業活動に携わっていた島田由美子さん（昭和32年 文学部 幼稚園教員養成課程 卒）の提案で、さいたま市の「見沼たんぼ桜回廊プロジェクト」に参加し、みやび桜という種の桜を1本植樹したことです。佐保会の目的の一つ「地域の文化に貢献すること」に合致する、また、支部のシンボルとして会員同士で共有し、後輩にも伝えることができる、ということで寄付を募って登録しました。プレートには「青丹よし 奈良女子大学 佐保会埼玉支部」と記し、植樹の後には見学ツアーを行いました。毎年開花状況を役員が見に行き、Webだよりで「咲きましたよ～」と発信しています。親の欲目？か、成長も花つきも並木一番に見えます。発起人の島田さんはこの1月に他界されました。みやび桜は支部と彼女の記念樹です。

もう一つは、本部から還元される支部活動援助金を活用しようと、県西部にある「原爆の凶・丸木美術館」の作品群と建物の保存のための寄付をしたことです。役員の提案に対し、いつもより多くの会員から「後世に遺すべき作品群」「賛成」との返信が届き、うれしいことでした。壁に名入りプレートがつく（はずです）ので、改修終了時には見学会を…と思っています。



▲みやび桜とプレート

▲見沼たんぼ見学ツアー（後列左が島田さん）

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、令和5年4月1日より令和6年3月31日までの1年間に、18,272千円（古本募金872千円を含む）のご寄付をいただきました。心から、温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄付金は、次のとおり、なでしこ基金による様々な事業の貴重な資金として、有効活用させていただきました。

【令和5年度支出状況】

科目	金額(千円)	実施内容
基金事業全般	16,902	学長賞、六年一貫教育プログラム事業 等
教育・研究環境整備事業	588	優秀な研究者への研究支援事業 等
国際交流等の支援事業	6,591	受入留学生支援、派遣留学生支援 等
附属幼稚園・小学校支援事業	1,100	附属幼稚園すべり台改修工事・移設撤去 等
修学支援特定基金事業	335	経済的に困窮かつ学業優秀な者への支援
合計	25,516	



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 中山満子、小川伸彦、吉岡英生、水原啓暁、芝崎学 編集責任者/室長 中山満子
連絡先/奈良女子大学総務課 〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

「ならじよToday」へのご意見・ご感想を是非お聞かせください。
より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。（編集部）

■バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>

公式X



公式Instagram

